

震災を経験して

なぎさ小学校六年一組 小林 和樹

ぼくは中野さんの話を聞いて、地しんはこ

わいものだと思ひました。

ぼくが生まれたのは、阪神・淡路大震災の

約二か月後で、地震のきおくはありません。

だけど家族の人などから聞くところでも、大変

だったというので、大きな地震だ、たんだと

思ひます。例えば水がとまるだけでも、おふ

ろにも入れないし、水も飲めないし、手も洗

えないから、とても大変だと思ひます。地震

がこわいと思ひもうひとつの理由は、自然の

ものだからです。殺人や、強そうならまだと

められるけど、地震はとめることが出来ませ

ん。だから、予防をすることが必要なんだと

思ひました。でも、実際は、予防をしている

家がほとんどいません。中野さんや、新がた

中えつ地震の時、中学校に行つて、予防をし

ていた家が、ほとんどなか、たと話していた

のでびくりました。

中野さんがネパールへ行って、た人達のように
みんなを助けるようにしたらしいと思いき
す。それに、中野さんはトラウマのしん動が
花火の音がこわいと言っていて、それが、それ
ぐらい地震はこわいんだと思いきした。そ
ういうことを考えると、ぼくが今生きているの
は、家族のおかげなんだと思いきいます。
だからぼくは、この命を大切にしたいです。